

令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

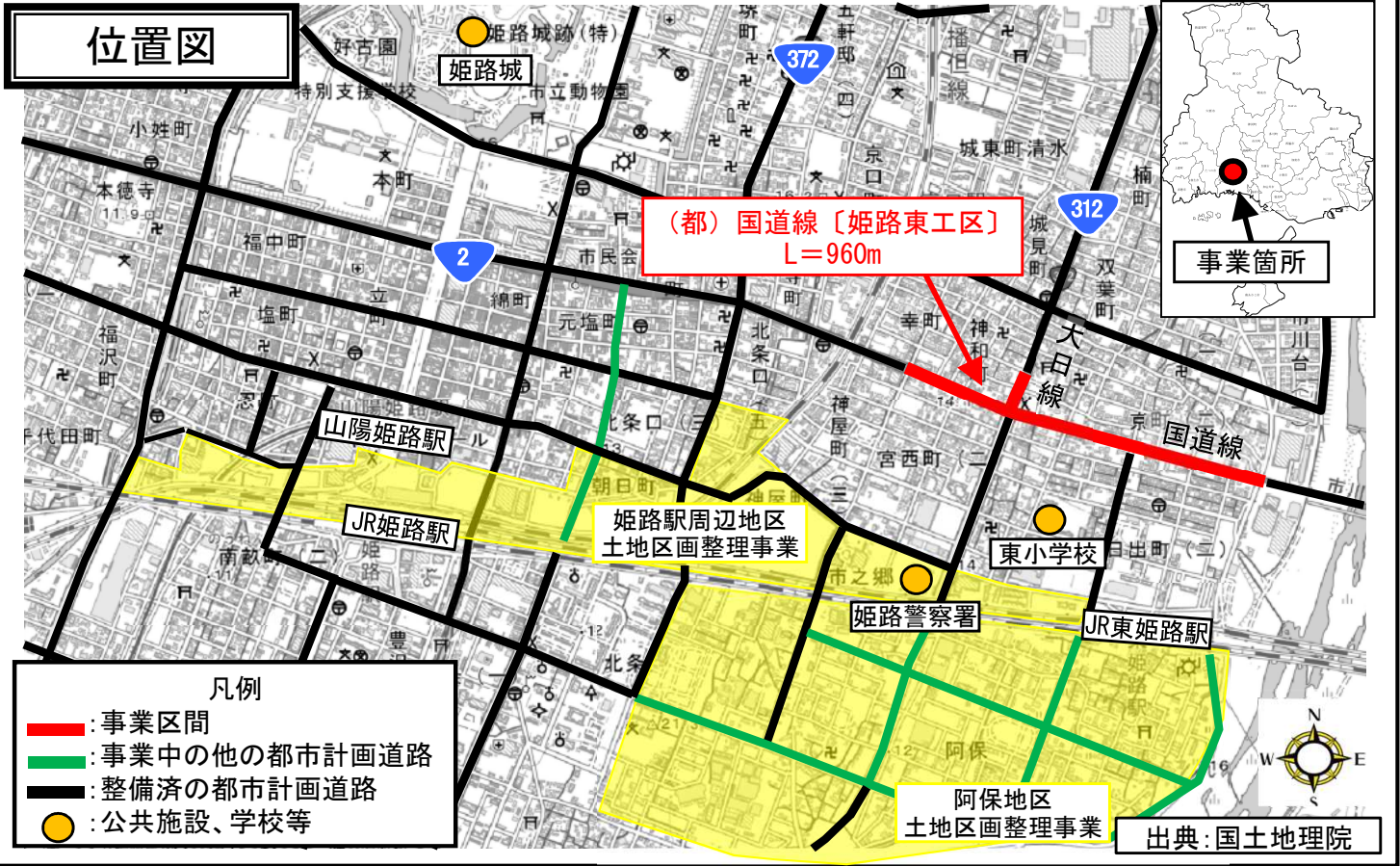
部課室名	土木部道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (街路班長 山内 有紀)	内線	4362 (4474)
事業種目	街路事業	評価年度等		現計画	前回評価時点
事業名	都市計画道路 国道線 (姫路東工区)	新規評価年度 平成25(2013)年度 事業採択年度 平成26(2014)年度 着工年度 平成26(2014)年度	総事業費	65億円	58億円
			内地地補償費	47億円	45億円
事業区間	姫路市若菜町 ～神屋町		進捗率	41%	—
			用補進捗率	64%	—
			残事業費	39億円	—
			完成予定年度	令和10(2028)年度	令和5(2023)年度
事業の目的			事業内容 () : 新規評価時点		
<ul style="list-style-type: none"> 本路線は姫路駅を中心とする放射環状道路網の東西軸を構成する道路である。 4車線化により、慢性的な交通渋滞を解消し、円滑な交通を確保する。 姫路駅周辺整備や東姫路駅の開業に伴う新たな交通需要の増加に対応し、市中心部へ至る放射環状道路網としての機能を強化する。 道路拡幅及び無電柱化により、緊急輸送道路として、都市防災機能を強化する。 			【延長】 960m 【道路規格】 第4種第1級 【計画幅員】 4車線 車道13.0m 両側歩道2.5m 両側自転車道2.5m (4車線 車道13.0m 両側自歩道4.0m) [全幅27.0m] 【計画交通量】 19,200台/日(20,100台/日) 【負担割合】 国55%、県22.5%、市22.5%		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> 本路線の南西部に令和3年9月に姫路市文化コンベンションセンター、令和4年5月に県立はりま姫路総合医療センターが開設した。 平成28年7月に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が改定された。 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①姫路市文化コンベンションセンター、県立はりま姫路総合医療センターの開設により、姫路天神前交差点のさらなる交通量の増加が見込まれるため、姫路天神前交差点の南北方向の(都)大日線の同時整備を追加することに伴い、約5億円増額する。 ②労務単価及び物価の上昇を受けた賃金等の変動に対処し、約2億円増額する。 ③用地交渉の難航により、事業期間を5年延伸して令和10年度までとする。 ④自転車ガイドラインの改定(平成28年)等、“自転車は原則車道”の徹底を受け、道路幅員の再配分を行い、自転車歩行者道から歩道と自転車道に変更する。				
進捗状況	①事業効果を段階的に発現するため、事業区間を3つの工区(I・II・III工区)に分割して施工する方針とし、そのうちI工区(幸町東～姫路天神前)の用地買収が完了したため、令和5年度下半期より工事着手予定。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H25年度新規評価)	【審査会意見】 新規着手妥当		【対応方針】 —		
(1)必要性	①現況交通量(約16,000台/日)が交通容量を超えており、慢性的な渋滞解消のために当該区間の早期4車線化が必要。 ②姫路警察、姫路市役所などの防災拠点にアクセスする緊急輸送道路として、大規模地震等の広域災害時に緊急車両や支援物資の運搬車両等が円滑に走行できる広域防災軸の整備が必要。				
(2)有効性・効率性(執行環境状況)	①費用便益比B/C=1.6(全体)(前回評価時B/C=2.3)、B/C=3.0(残事業) ②地元より早期整備の要望がある。				
(3)環境適合性	①車道舗装を排水性舗装とし、交通による騒音を低減し、沿道環境の改善を図る。 ②歩道舗装を透水性舗装とし、ヒートアイランドの抑制等、都市環境の改善に寄与する。 ③無電柱化により、防災機能とともに都市景観の向上を図る。				
(4)優先性	①阿保地区土地区画整理事業区域の大日線が、平成26年秋に暫定2車線で供用され、令和7年に4車線での供用予定であるなど、周辺道路の整備が進んでおり、当該区間についても早期に供用を図る必要がある。				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、姫路駅を中心とする放射環状道路網の東西軸を構成する重要路線であることから、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第1回〕）

事業名	街路事業	路線・河川名	都市計画道路 国道線（姫路東工区）						
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="2">凡例</th> </tr> <tr> <td>R 5 着手区間</td> <td style="background-color: yellow; width: 20px;"></td> </tr> <tr> <td>R 6 以降整備区間</td> <td style="background-color: red; width: 20px;"></td> </tr> </table>				凡例		R 5 着手区間		R 6 以降整備区間	
凡例									
R 5 着手区間									
R 6 以降整備区間									
	事業進捗状況・予定	整備効果							
全体 H26(2014) ~ R10(2028)	【総事業費＝65億円】 延長：960m 用地補償件数：171件、約9,366㎡	/							
事業採択から 再評価まで (実績) H26(2014) ~ R5(2023)	【事業費＝26億円】 ・事業進捗率：約41%、用地進捗率：約64% ・I工区の用地取得完了 ・令和5年度下半期よりI工区の工事に着手	/							
今後5年間 (予定) R6(2024) ~ R10(2028)	【事業費＝39億円】 令和10年度供用に向けて、事業を推進する	①慢性的な交通渋滞の解消 および円滑な交通の確保 ②緊急輸送道路としての都市防災機能の強化							

街路事業 都市計画道路 国道線〔姫路東工区〕

位置図



- 凡例
- : 事業区間
 - : 事業中の他の都市計画道路
 - : 整備済の都市計画道路
 - : 公共施設、学校等

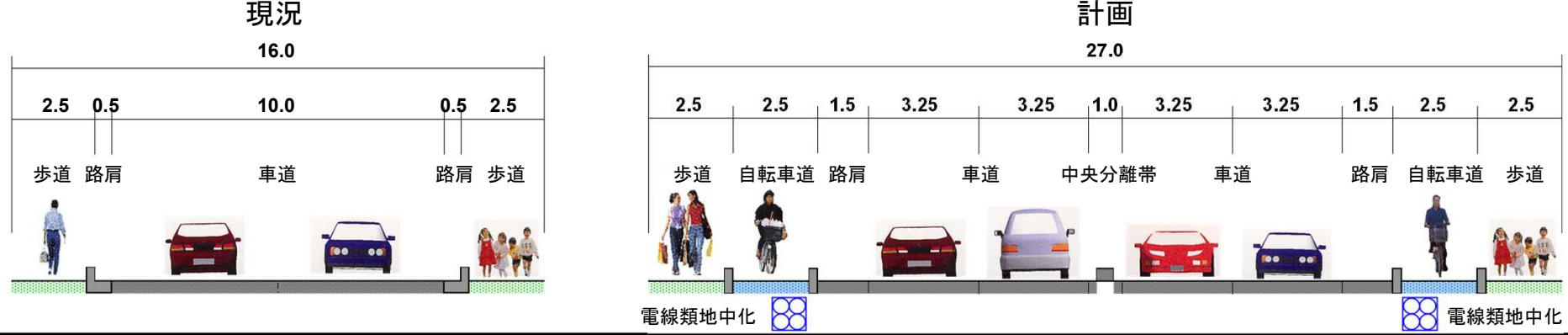
目的

- ① 4車線化による渋滞解消および円滑な交通の確保
- ② 市中心部へ至る放射環状道路網の機能強化
- ③ 道路拡幅及び無電柱化による緊急輸送道路としての都市防災機能強化

事業概要

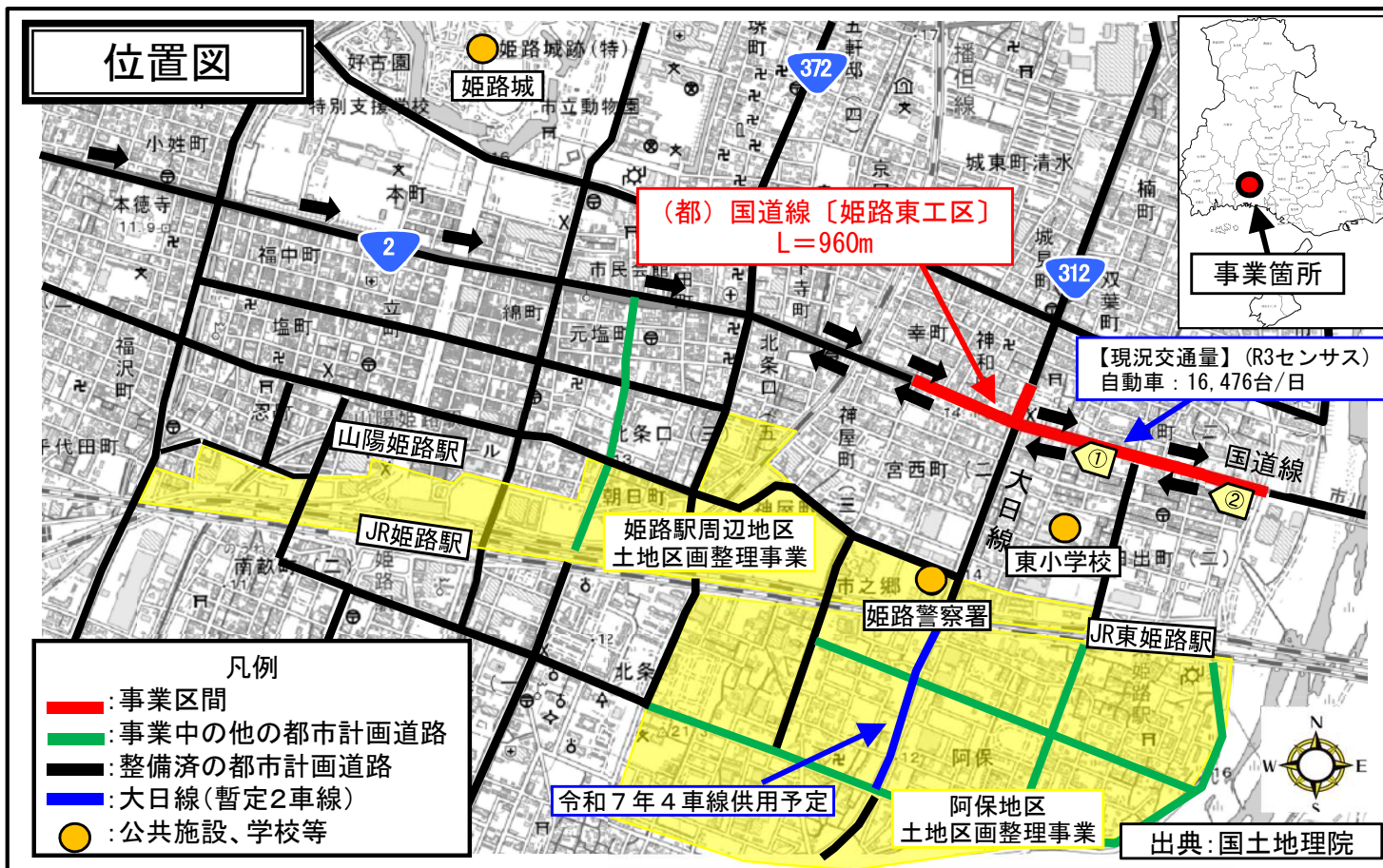
事業区間：姫路市若菜町～神屋町
 総事業費：65億円
 内用地補償費：47億円
 事業期間：H26～R10
 事業概要：現道拡幅
 延長：960m
 費用便益比B/C：1.6

横断図



事業の必要性・優先性

- ①現況交通量(約16,000台/日)が交通容量を超えており、慢性的な渋滞解消および円滑な交通の確保のために当該区間の早期4車線化が必要。
- ②阿保地区土地区画整理事業区域の大日線が、平成26年秋に暫定2車線で供用され、令和7年に4車線での供用予定であるなど、周辺道路の整備が進んでおり、当該区間についても早期の供用が必要。
- ③姫路警察、姫路市役所などの防災拠点にアクセスする緊急輸送道路として、大規模地震等の広域災害時に緊急車両や支援物資の運搬車両等が円滑に走行できる広域防災軸の整備が必要。



現況写真

①姫路天神前交差点付近の渋滞状況



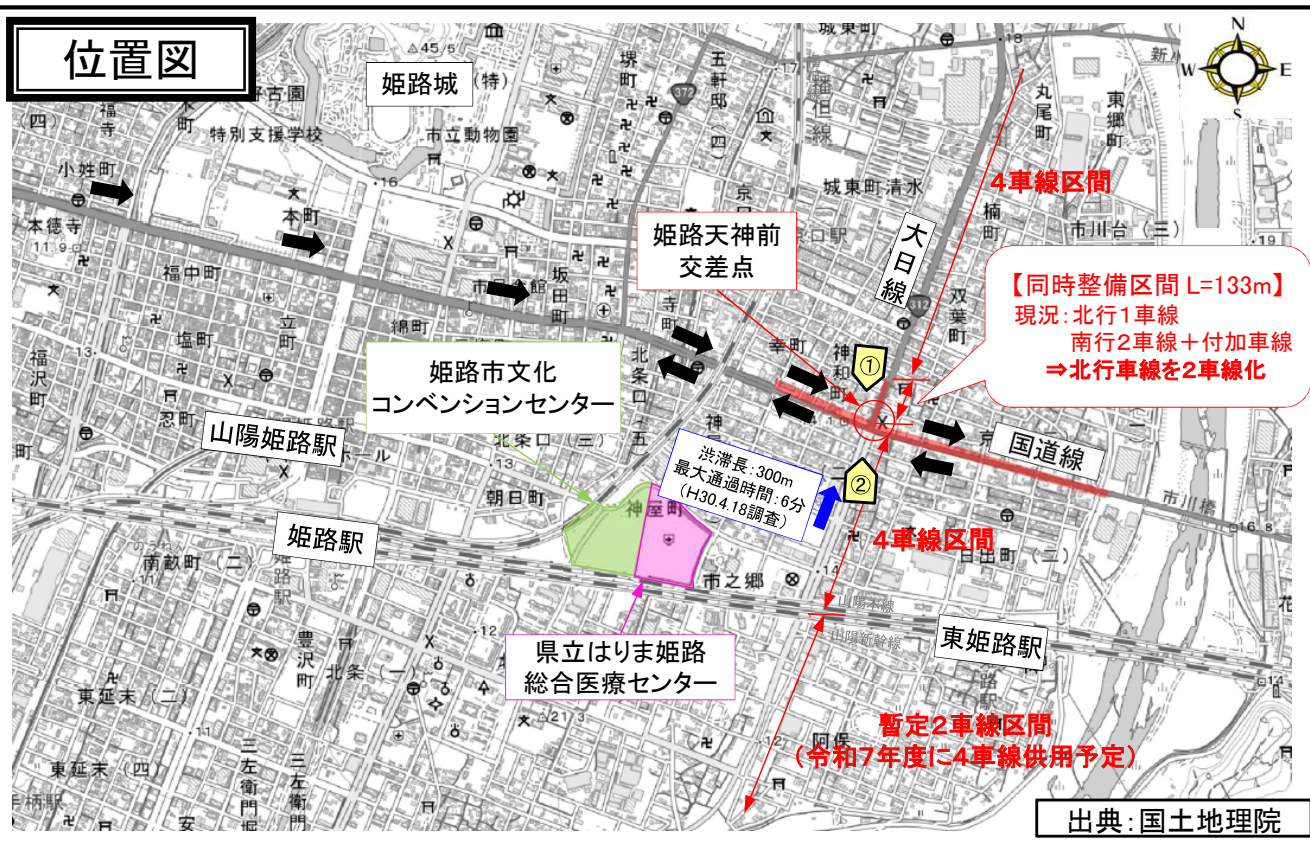
②市川橋西詰交差点付近の渋滞状況



事業の必要性・優先性

④姫路天神前交差点の北行方向は、交差点北側が1車線であることからボトルネック区間となっており、慢性的に渋滞していることに加え、令和3年9月に姫路市文化コンベンションセンター、令和4年5月に県立はりま姫路総合医療センターが開設したことから、円滑な交通の確保のために、(都)大日線の北行車線の2車線化が必要。

位置図



現況写真

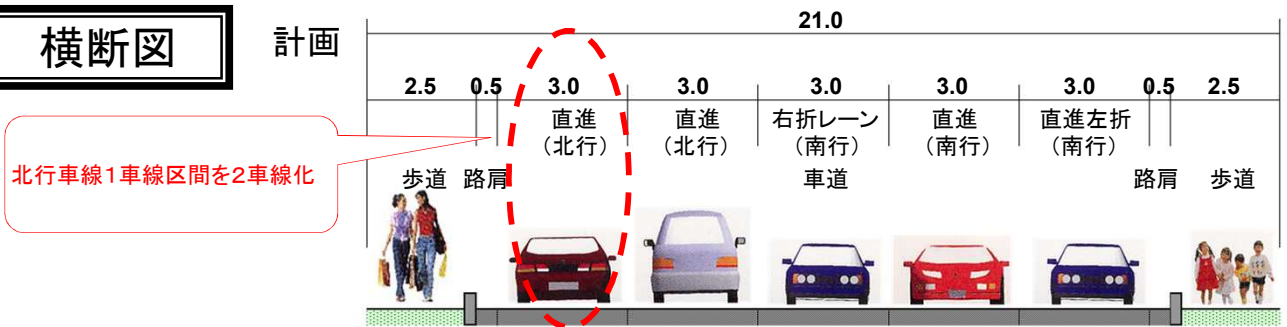
①姫路天神前交差点(北行方向)の渋滞状況



②姫路天神前交差点(北行方向)の渋滞状況

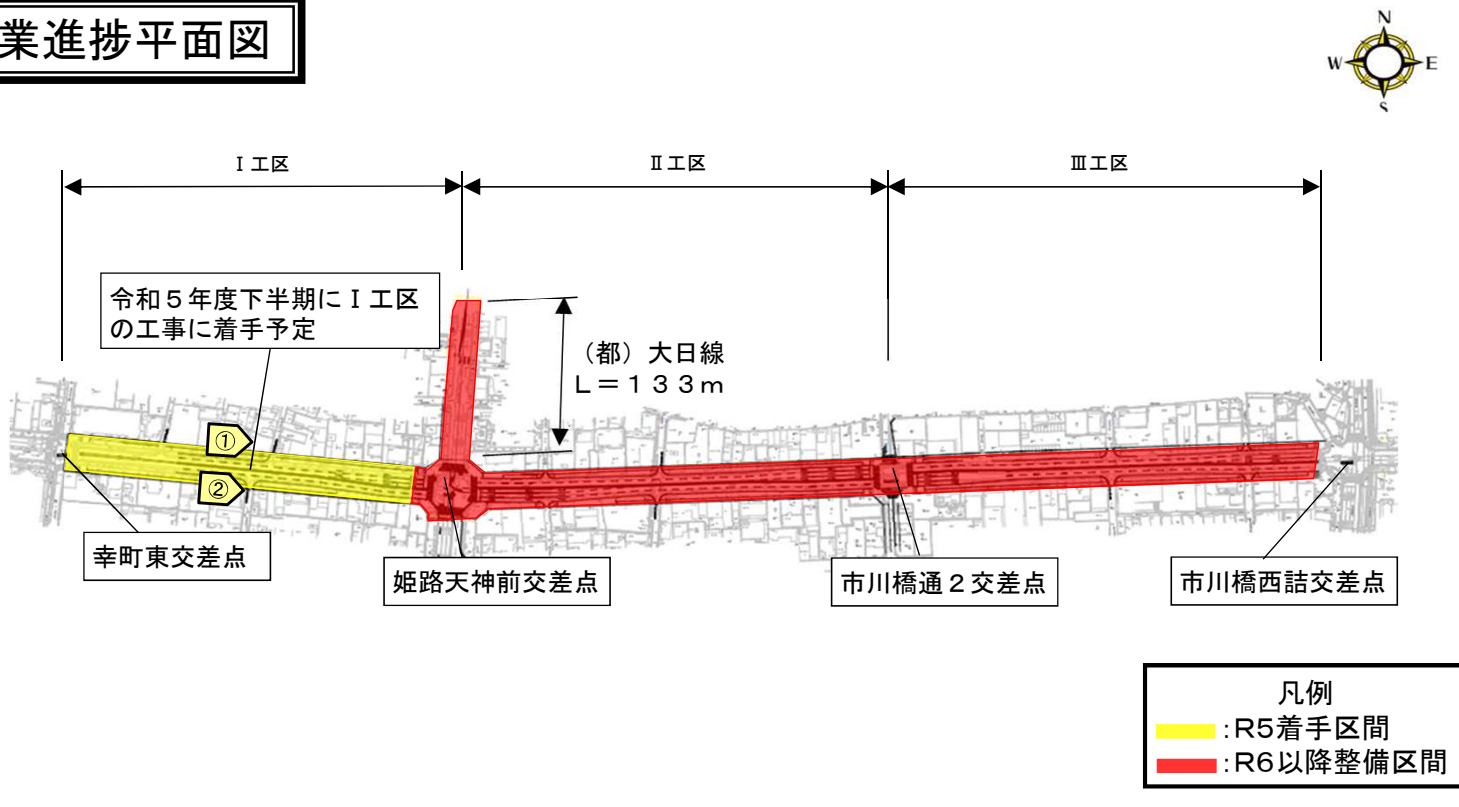


横断図



進捗状況

事業進捗平面図



工程表

工区	工種	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
Ⅰ・Ⅱ工区 (幸町東～市川橋通2 および大日線)	調査・設計															
	用地補償															
	道路改良工事															
Ⅲ工区 (市川橋通2～市川橋西詰)	調査・設計															
	用地補償															
	道路改良工事															

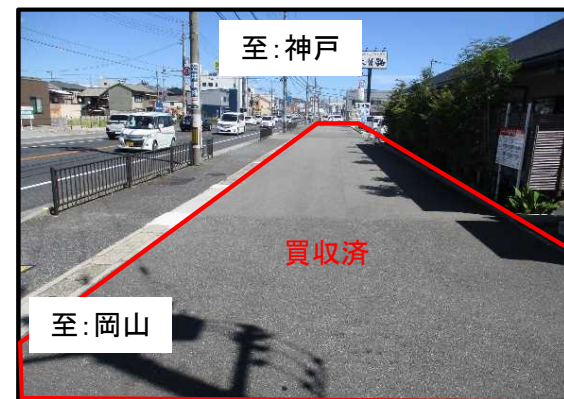
: 前回計画
 : 実施・計画

現況写真

①用地買収進捗状況(Ⅰ工区)



②用地買収進捗状況(Ⅰ工区)



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益	目的地までにかかる時間が短くなることによる便益
② 走行経費減少便益	交通の流れがスムーズになり、燃費などが向上することによる便益
③ 交通事故減少便益	交通事故が減少することによる便益

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
街路	都市計画道路 国道線 (姫路東工区)	全体事業費	① 走行時間短縮便益	9,397	時間短縮 4.0分→1.4分 計画交通量 19,200～ 30,800台/日	6,262	6,174	88	1.6
			② 走行経費減少便益	420					
			③ 交通事故減少便益	10					
			計	9,827					
		残事業費	① 走行時間短縮便益	9,397	3,290	3,202	88	3.0	
			② 走行経費減少便益	420					
			③ 交通事故減少便益	10					
			計	9,827					

(2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○	緊急輸送道路及び広域防災軸の整備
		救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)	—	—
		減災対策への取組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○	火災時の延焼遮断帯としての機能を確保
	平時	救急医療体制の支援	○	県立はりま姫路総合医療センターへのアクセス性を向上
		交通安全対策	○	歩道・自転車道の整備により安全な歩行者・自転車空間を確保
②地域の活性化		地域間交流の促進	—	—
		中心市街地の活性化	○	市中心部へのアクセス性を向上
		地域産業の活性化	—	—
		観光支援	○	姫路城へのアクセス性を向上
		地域プロジェクト等支援	○	キャストィ21の支援
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○	JR姫路東駅へのアクセス性を向上
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○	電線類の地中化などによる道路景観の向上

地域からの要望状況等

要望状況等	地元より早期整備の要望がある。
-------	-----------------